

出会い ふれあい 助け合い

# サロンあべの

VOL.166

へサロン・あべのへ3月の出会い

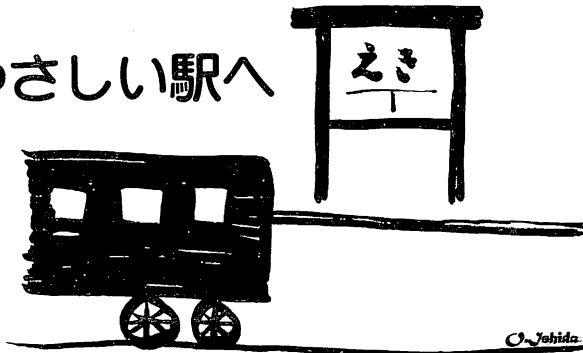
平成12年3月18日(土)午後1時からへサロン・あべのへ3月の出会いを開催しました。

3月のパネラーは、「おんなの目で大阪の街を創る会」という市民グループで活動されている三好桂子氏でした。

## プロフィール

三好桂子氏は、1993年5月に大阪市立婦人会館で開講の女性社会セミナー「やさしい都市(まち)へのアプローチ」く女性のための都市環境講座を受講。その受講生有志で「おんなの目で大阪の街を創る会」を設立。高齢社会に向けて、高齢者をもとより、障害者、子どもたち、すべての人にやさしい都市(まち)づくりとはどういうものなのかを女性の視点、生活者の

ひとにやさしい駅へ



視点で考え活動している。

同会は大坂NPOアワード97グランプリ、1998年度きらめき大賞(大阪市)など受賞。また、ドーンセンター(大阪府立女性総合センター)の運営推進委員や、大阪交通労働組合の市民のための市営交通モニターなどを委嘱されている。

## 動機

婦人会館の同講座で、都市空間と住環境のあり方について、くらしの中から考える視点を学んだ。プログラムは「だれもが住みやすいやさしいまちはどんなまちか」を広い範囲でとらえて組んだもの。

その中にはフィールドワークもあり、車椅子や松葉杖、アイマスク、ベビーカーを使って、外出用件・外出地域を決めて実際に街をチェックして人にやさ

しくない街の条件をまとめると

いうものであった。この時、街のいたるところにバリア(障壁)が存在し、移動の連続性が保障されていないことに気がついた。

そして、ある日の雑談の中で高齢のメンバーが何気なく「地下鉄は階段が大変なので、時間がかかってもバスを利用することにしている」という言葉から街がそうであったように、地下鉄もまた移動の連続性が保障されていないのではないかということになり調べることになった。

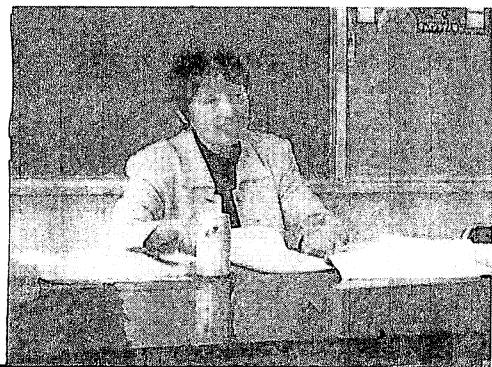
### 調査の視点

大阪の街を暮盤の目状に走っているたいへん便利な地下鉄は、私たちが高齢になったときにも私たちの大切な足となってくれるのだろうかと考えた。

地下鉄のバリアフリー化がどこまで進んでいるのかを、主婦の視点、生活者の視点で調べて

みることにした。

調査中は高齢になったときを想定して、常に車椅子を使用した。また、車椅子を使っている人や、目や耳に障害のある人、高齢者、他のまちづくりグループ



ひとにやさしい街づくりを・・・と、三好桂子さん

プの人たちにも呼びかけて、生  
の音がたくさん出てくるような  
調査をしたいと思った。市民の  
側だけでなく職員さんからも聞  
いて、お互いに気づいたことを  
出し合って、人にやさしい駅に

なるよう提案できればと考えた。

### 地下鉄ウォッチング

調査は、まず調査表の作成から始まった。その項目作りに体に障害を持つ人たちのグループの意見を聞くことにした。そして、この調査表をもとに毎回車椅子を使つての調査をした。がある調査で、体に障害を持つ人の応援があつた時、私たちがしている擬似体験の曖昧さを痛感した。例えば傾斜のある新型の券売機は、硬貨投入口は広く下方にあり入れやすくなったが、逆に料金ボタンは遠く押しにくくなり、車椅子の目線からはボタンに天井の蛍光灯が反射し、見にくいとの指摘があつた。私たちも車椅子に乗って調査したのにもかわらず、その物に身体を合わせていたことに初めて気がついた。

一路線目の調査も中盤にさし

かかったところから、どの駅も同じような造りで、深さも同じな

ら階段も同じではないか、こんな調査を誰が必要としているのかななどと、メンバーから疑問を持つような雰囲気が生じてきた。私たちは、それぞれが一生懸命に調べているのに、お互いの気持ちを伝えようとはせず、ただ黙々と調査は続いた。その後、徐々に気持ちがいよいよ、このままでは調査の続行は難しいと悩んだ時に、講師の助言を受けた。「自分たちの思いから出発したことをするのが市民活動よ」との言葉に初心に立ち返って、迷いを乗り越えることができた。今は「できることをできる時にできる人がする」を会のモットーに活動をしている。

地下鉄の御堂筋線をはじめとする7線、111全駅の調査をする7年12月までの2年をかけて終了した。(延参加数474人)

提案・冊子作り

調査票の調査項目は97に及んだが、これをまとめ、駅への改善要望や提案を作ることとなった。そして「ひとにやさしい駅になるため」に13の提案をした。その中には、駅が持つ多くの情報のPRや、施設の位置や内容がわかりやすいデザインなど、

すぐに取りかかれることなども入れてまとめた。

大阪市営地下鉄の調査内容、会の活動提案などをまとめた冊子は「ひとにやさしい駅へ」市民グループからの提案」(A4版150頁・1000円)として99年5月に完成させた。ここに至るまでには、家族の協力や

乗り物いろいろ、体験いろいろ

中島裕治

電動車イスを移動手段として  
いる僕が電車を時々利用する

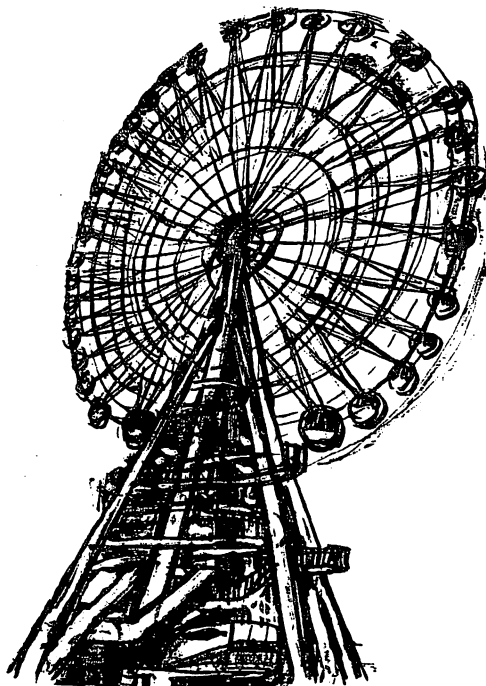
ので、暖かい船室で観光を楽し  
めました。

き、交通アクセスに問題がある  
ところも多いですが、多くの人  
に助けられてほとんど、気持ち  
良く利用出来ています。

新神戸ロープウェイや天保山  
の大観覧車は、車イス用もあり、  
とても楽しめました。まさか、  
このような乗り物に乗れるとは

秋が深まった日、神戸港めぐ  
りの船に乗った時のこと、「船  
上はとても寒いので」と、狭い  
階段を皆で降りしてください

思ってもいなかったので胸ワクワク、  
子供の時にもどったよう  
に周りをキョロキョロ。乗って  
いる時間がとても短く感じられ



まちづくりの専門家など、いろ  
んな方々のサポートがあった。  
これからも今回の活動で得たネ  
ットワークを大切にしながら、  
生活者の視点で声を上げ、市民  
が主役の街になるよう活動して  
いきたい。

真も見せていただきました。今  
後は、メンバーに体に障害のあ  
る方も入会されるとのことです  
。今回は、地下鉄という交通  
機関の内容でしたので、駅員さ  
んの対応や利用者のモラルなど、  
参加者から活発な意見が交わさ  
れました。

参加者15名(山村貴司)



奥田真祐美  
2000  
魅惑のシャンソン

日時=5月26日(金)  
開場=18時、開演=18時30分  
会場=森ノ宮ピロティホール  
JR環状線・地下鉄中央線・  
長堀鶴見緑地線「森ノ宮」  
駅下車すぐ  
入場料=前売り¥4,800.  
当日¥5,500.  
(全自由席)  
出演=奥田真祐美  
さとう宗幸  
宇賀路智子・西川敬・生結紘  
演奏=西川真グループ  
曲目=クスノキのうた  
愛の賛歌・理由もなく  
青葉城恋唄・百万本のバラ  
二度とない人生だから  
ほか……



★ラジオ番組に出演いたします  
番組名=ハーイ!パラダイス旅行  
三上公也です!

(AM KOBE=ラジオ関西)  
日時=5月1日(月)昼12時~  
奥田真祐美が生出演します。  
奥田真祐美の希望曲をは  
がきかファクスで番組宛  
にどしどしリクエストし  
てください。

はがき:  
〒650-8580  
ファクス:  
FAX 078-351-5516

.....

お問い合わせ先;  
TEL・FAX 06-6692-8774  
(奥田真祐美音楽事務所)

なつかしい思い出

堀田ゆかり

ました。また、大観覧車に乗っ  
てみて、初めて自分は高所恐怖  
症だと分かりました。  
自宅近くの駅は、高架なので  
エレベーターがついています。  
最初のころ、身障者用ボタンも

あるこのエレベーターで地上へ  
下ると、出入口のドアは回転ド  
ア。とても外へ出れるものでは  
なく、首をかしげたものでした。  
今では改善されましたが。

五、六年前の夏、私は妹と一  
緒に夜行バスで東京デイズニー  
ランドへ行きました。  
初めて見る東京は、すごく大

きく感じました。夏休み中でも  
あり、人気の乗り物は一〜二時  
間待ちでした。  
私は、ビックサンダーマウン

テン、スプラシユマウンテンな  
どに乗ってみたいと思いました  
が、大人気ですぐに乘れそうに  
もありませんでした。初めは、  
暑いしやめようか、なんて思っ  
ていましたが、妹が「今度、い  
つ来れるか分からないので乗ろ  
う」と言ったので、炎天下の中  
を一〜二時間待って乗りまし  
た。ビックサンダーマウンテンは、  
スピードが速く怖かったけど、  
そのスピード感が楽しいでした。  
左右に大きくゆれて、私は落ち

ないように身体全体に力が入っ  
て、踏ん張っていました。  
スプラシユマウンテンは、最  
後に落ちる所で、写真が撮れる  
システムになっていました。そ  
のスピードは速く怖かったので、  
写真を見ると顔はこわばって  
ました。  
今でも写真を見るたびに、懐  
かしく思い出されます。



# 〈サロン・あべの〉とは？

1

## うえひら☆ゆきお

のように変化するのかが、見えてくると思います。

### 〈サロン・あべの〉の概略

〈サロン・あべの〉とは？そんな、素朴ですが、とっても難しい事について、今月から数回に分けて、考えていきたいと思えます。

#### はじめに

障害者の社会参加の促進ということが、言われ続けています。しかし、現実の社会を見てみると、順調に進んでいるとは言い難いかもしれません。その原因の多くは、物理的な問題であったり、人々の偏見であるのかもしれませんが、当然、行政をはじめ障害者団体も、その解決に向けて努力をしてきました。しかし、それだけで社会参加が促進されるのでしょうか。すべての障害者が、社会参加を自ら強く望んでいるのでしょうか。社会参加に対して、どうしても積極的になれない障害者も、いるのではないのでしょうか。そういう障害者に対しては、

物理的・人的な環境の改善と同時に、障害者自身に向けての、何かアプローチが必要だと思っております。

障害者が社会参加するためには、ある程度の社会経験や知識が必要です。本来それは、学校教育によって得られるものかもしれませんが、しかし、実生活に沿った、本当の意味での社会経験や知識は、学校によって教えられるものではなく、自ら学び取るものだと思います。

〈サロン・あべの〉は、ボランティア・グループです。対象をとくに限定してはいませんが、障害者問題を主に取り上げていて、運営も障害者が中心となっていますから、セルフ・ヘルプ・グループの一形態としてとらえることもできます。この〈サロン・あべの〉の活動を考えることで、障害者の新しい社会参加のあり方や、それに向けたアプローチ方法について、また、障害者自身が社会経験を積むことによって、ど

阿倍野区阪南町五丁目育徳コミュニティセンター二階にある研修室。この小さな部屋に、毎月第三土曜日の午後一時になると二十数名の参加者が集います。〈サロン・あべの〉毎月の「出会い」です。毎月、違ったテーマを設けて、その分野の専門家をパネラーにお招きして、お話を聴いた後、質問などを交えながら、参加者全員によるフリーディスカッションをしています。

また、参加者には当日のレジメと同時に、十数ページの小冊子「サロン・あべの」紙を配ります。内容は、前回の出会いの報告のほか、何本かの連載で構成しています。エッセーあり、論文ありで、(手前味噌ですが)読み応えがあります。現在は、毎月六百部を印刷して、定期的な読者のほか、一部の福祉関係機関にも配布しています。

〈サロン・あべの〉の発足は、昭和六十年三月です。当時あべのボランティア・ビューローでコーディネーターをしていた

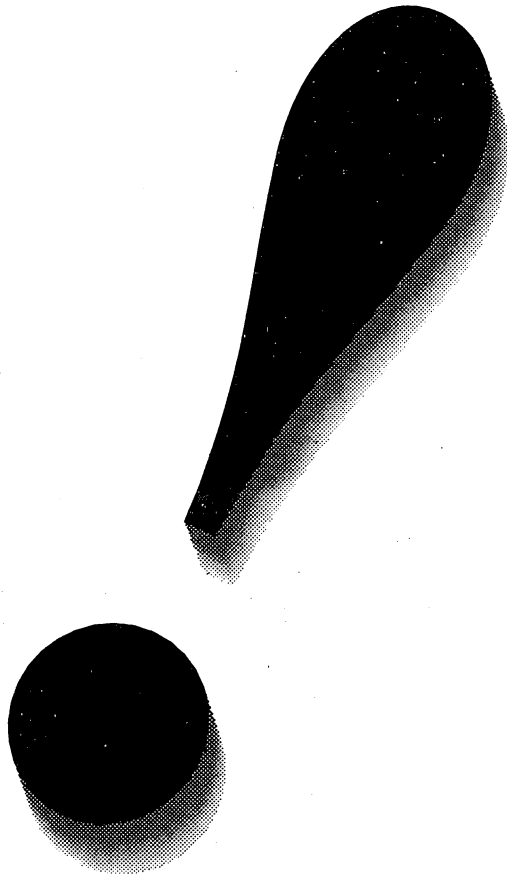
岡知史氏の勧めで、地域の障害者数名が集まり、始めました。毎月第一土曜日に運営委員会を持ち、毎月の「出合い」の企画・実施のほか、「サロン・あべの」紙の編集及び発行を行っています。ちなみに、運営資金の大半は、参加者からのカンパに頼っています。

〈サロン・あべの〉の特徴は、会員制ではなく、自由参加を原則にしていることです。毎月第三土曜日の午後一時に、育徳コミュニティセンター二階の研修室に行けば、誰でも参加ができるのです。参加者は、

「サロン・あべの」紙や、新聞等に紹介されたテーマを見た上で、参加・不参加を決めればいいのです。もちろん、まったく初めての方も大歓迎です。老若男女、障害の有無も問いません。

運営委員会は、その日のテーマを提供します。参加者は、そのテーマを選んで参加します。〈サロン・あべの〉とは、運営委員会の活動だけではなく、その参加者をも合わせたものなのです。運動団体でも、単なるサークルでもありません。不思議な、でも新しい試みを実践しているボランティア

# サロンの 全部がわかります。



はあとが、はろー！

頒布価500円（送料別）

ア・グループだと、自負しています。

### 〈サロン・あべの〉の活動目標

〈サロン・あべの〉の目標は、毎月の

「出会い」と「サロン・あべの」紙、この二つ媒体を使って、障害者の社会参加を促進させることです。

「出会い」の場合は、そのまま、ある種の社会参加の場でもあります。障害者と健常者が同じテーブルに着き、同じパネラーの話を聞き、参加者としてまったく同じ立場から、互いに意見を出し合うのです。これまでは、障害者の運動団体にしてもサークルにしても、障害者と健常者とが、ポランティアをされる側とする側に別れてしまい

がちで、対等な関係を築くことが非常に難かったと思います。そこを〈サロン・あべの〉では、障害者も健常者も同じ、一人の参加者として位置付けることで、対等な関係を作り出し、本音を言い合うことでの相互理解を目指しているのです。また、その日のテーマを共通の話題にして、参加者同士が横のつながりを作ることも可能です。

もちろんパネラーのお話は、そのまま聴いているだけでも十分に価値のある内容です。

「サロン・あべの」紙は、「出会い」の報告と同時に、福祉を伝える情報紙でありたいと思います。読みやすい内容で、さりげなく社会福祉とは何かを考えてほしいのです。さらに障害者にとっては、社会参加

へのヒントになる内容を多く載せたいと思っています。もちろん、〈サロン・あべの〉の活動を、広く世間に知ってもらうための、広報紙としての役割も持たせています。

今までの障害者運動は、一方的な要求運動が多く、障害者と健常者の間にある氷のようなものを、力任せにたたき割ろうとしてきたきらいがあります。そしてそれなりの成果も上げてきました。しかし〈サロン・あべの〉の活動は、障害者と健常者の両者の歩み寄りを目指しています。固い氷を、ゆっくりではありますが、確実に解かして行きたいのです。

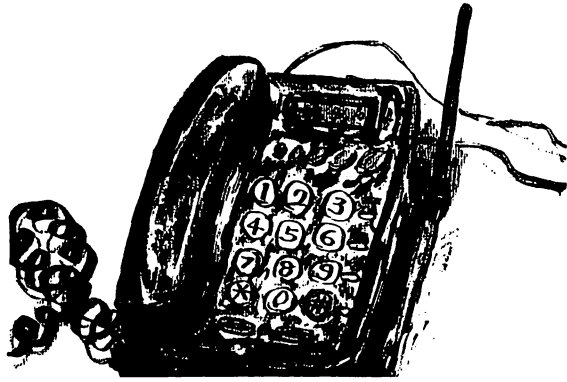
## ★電話の温かさ

希少難病の子どもをもつ親たちが、病氣ごとに親の会を作っている。先日、そんな親の会の集いで「電話の温かさ」が話題になった。

私の印象では電話は用件を伝えるだ

けの道具である。大事なことは電話ではなく、実際に顔を合わせて話すべきだ。そんなふうに思っていた私にとって「電話は温かい」という話は驚きだった。

「温かい」といっても比べるものもつと「冷たい」だけなのかもしれない。並べて話題になったのは「電子メール」であった。「電子メール」と比べたら「電話は温かい」という。



「メールでは相手の気持ちが変わらない」というのが「冷たさ」を感じる主な理由らしい。電話であれば息づかいだけや声の調子で気持ちが変わる。「メールは一方通行」という不満も出された。電話だと言葉が交わせるので、そこで気持ちが通いあうのである。そういえば、私はホームページを出しているためか、知らない人からよくメールが届く。ただ一方的に定期的に日々の気持ちや不満を書いてくる人もいる(会ったこともなく、また返事を

書いたこともないのに!)。就職を世話してほしいというメールもあれば、長い論文をいきなり送ってきて「ご指導お願いします」といわれることもある。電話や郵便であれば、ほとんど考えられないことだろう。

メールは便利であり、気軽なものだ。だからこそ、こんなことが起きる。しかし私は、こういう奇妙なメールに腹立たしい気持ちをもつことはあまりない。メールとは所詮そういうものであり、そういうメールを受けても無視することが許される文化だと思っている。逆にいえば、突然、見知らぬ人に深刻な相談をすることが許され、しかもそれを受けても平然と無視することが許されるメールの世界とは、なんと冷たいものだろう。気軽に知らない人と交流できるということは、こんな冷たさをも運んでくる。

電話をかけるときは勇気がある。相手が忙しいときかもしれないし、何かほかのことに夢中になっているときかもしれない。相手に迷惑をかけ、不快

な思いをさせるかもしれない。

それだけの危険を承知で電話をするのである。電話を受けたほうも、それを知っている。電話では、こちらが出すつもりではなかった気持ちが伝わってしまうことがある。だからこそ、かえって相手が自分に心を開いてくれていることを感じるができる。メールと違って言葉が残らないから、誤解を恐れずにいろんなことがもつと自由に伝えられる。

直接、電話で話すのが嫌だから、メールやファックスでやりとりをしないだろうか。私などは苦手な人とは、そういう手段で連絡しあうことがあるが、文字のやりとりのなかでますます相手との距離を感じ、相手に対する苦意思識がかえって強くなることが多い。メールやファックスのやりとりで、お互いに不信感が強くなってしまい、思い切って電話をしたら、笑い話で終わったという経験がある。そう考えれば、やっぱり「電話は温かい」のである。

(知)



# 植物あれこれ

## 第十五回

山口康二郎

— サクラ — ハその2V

「サクラは春咲くとは限らない」

前後)の決まり文句「桜花爛漫のこの佳き日……」をなつかしく思い出します。三十数年の教師生活の中で、桜の開花の

前号では「サクラ」に対する私の感情を述べ過ぎたかもしれないといささか反省しています。申しあげたかったことは、事程左様にサクラは日本で最もポピュラーであり、時に人の生き方まで左右しかねない長い歴史を持っているということです。

さて、今日三月三十日東京で桜の開花宣言が出ました。昨年より一日遅いといわれています。もちろんこれは「ソメイヨシノ」です。

開花後一週間で満開となるので、この号が皆様に届くころは、ほとんど散っていることでしょう。吉野山の「ヤマザクラ」も中の千本が見ごろになっていると思います。ソメイヨシノの開花時期は、非常に安定しています。教師時代の入学式(四月八日



ずれば、せいぜい三日ぐらいであったように思い、調べてみると正にその通りでした。暖冬とか、寒い冬といわれても二月初め

から三月末にかけて気温のグラフはそんなに変化が著しいものではありません。

サクラは花びらが落ちるとすぐに、もう翌年の芽が生じています。この芽は成長することもなく、じっと秋を迎え、冬を過ごし、翌年三月末の一定時期に花芽として、蕾を経て開花するのです。摂氏十八度以上の気温がポイントといわれています。

それでは花の散ったサクラを温度調節して、もう一度十八度に下げると花が咲くかというそれはダメです。サクラの開花ホルモンは冬の寒気に出遇って、はじめて「活性化」し気温が徐々に上昇し、最高気温が連続して十八度になると開花するのです。

しかし、数年に一度、秋にサクラが咲き「狂い咲き」とテレビなどで報道されることがあります。これはまったく気象のいたずらのなせることです。秋の気候はかなり気まぐれで十月初めころ、急に冷え込むことがあり、ごくまれに五度近い低温が、二三日続き、次の日はまた平年並みの二十度近くに戻ってしまうことがあります。こんな特殊な現象が起きると開花ホルモンが

寒気を受けて活性化して、花が開いてしま  
うことがあります。これを人は「狂い咲き」  
といいますが、サクラが狂っているのでは

なく、気象異変によるものであることをサ  
クラのためにぜひ弁解しておきます。  
「厳しい寒さに耐えてこそ、花開く云々」

## 美智子のこんな話

岸田美智子

介護サービスのコマースシャルが登場

あと一カ月を切った介護保険のスタート  
ですが、その動きには、まだまだだめまぐる  
しいものがあります。

この介護保険のスタートで、今までの社  
会福祉の在り方が大きく変わろうとしてい  
ます。その変化については、いろいろな所

で書かれていますので、詳しいことは書き  
ませんが、その変化の一つに措置から契約  
へという変化があります。

もし、今の介護保険制度に障害者が組み  
込まれたならば、その変革は障害者の分野  
にも、多大な影響を与えるかのように謳わ  
れています。

確かに、その変化は選択権を保障し、介  
護の問題を社会的な位置に押し上げていく  
ものだと思います。でも、在宅や長年閉鎖  
的な入所施設で暮らす障害者にとっては、  
どのような関係があるでしょうか。

40歳を過ぎれば、どんな重度の障害者で  
も年金から介護保険料が天引きされ、使っ  
た介護サービスの単価一割の負担が発生し  
ます。でも、その不自由な生活は、何ら変  
わろうとしていません。

なぜならばもっと外へ出たいと思って、  
ガイドヘルパー制度を利用したいと思っ

と、またぞろどこかの人がサクラにあやか  
った人生訓を垂れているかも……イヤハヤ

も、今の介護保険サービスメニューには入  
っていません。そして、全額をホームヘル  
パー制度に使うことも出来ず、その何割か  
は施設のデイサービスや、ショートステイ  
に使わなければならない状況で、せっかく  
地域で自立生活を実現してきた重度障害者  
に、またもや施設へ帰れといっているよう  
です。

最近、テレビや新聞などを見ると、  
やっと介護サービスのコマースシャルが、目  
に付くようになってきました。私は、この  
コマースシャルを見ながら社会が変わったな  
あと実感した反面、「なーんだK介護者派  
遣会社か」とがっかりしてしまいました。

K介護者派遣会社と言えば、日本で初め  
て巡回型ではありますが、24時間の介護サ  
ービスを実現させた企業だと聞いています。  
でも、その評判は、障害者にあまりいいも  
のではありません。そのコマースシャル内容

も、やはり介護する家族のお手伝いや、トイレや食事、着替えなど生活場面だけのお世話に留まっているように思えてなりません。これだけのコマシヤルを実現出来る費用があるならば、もっと今までなかった介護サービスのメニューを打ち出して欲しかったと思います。例えば、特に男性ヘルパーのグループを作るとか、寝たきりにしない介護や、車椅子を使い、ほとんど社会参加していくための介護支援の内容や、同性介護の保障などを打ち出して欲しかったと思います。

この間、介護保険を目当てにいろいろな民間の介護者派遣会社が出来ていますが、このような画期的なメニューをやっているところとして業者は、まだまだないようです。もうすぐダイレクトメールで、いろいろな介護サービスのカタログが送られてきたり、インターネットで契約出来たりしてくると思うのですが、その介護サービスのメニューの中に私たちが望んでいる同性介護の保障や、社会参加の介護保障のサービスが本当に現れてきて欲しいものです。

### 「お誕生日会」に思う

昨年の十二月から、私は一週間に一度だけ近くの特別養護老人ホームでデイサービスを受けています。

デイサービスは主に入浴ですが、他に利用者たちと昼食を取ったり、リハビリやゲームをしたりして楽しんでいきます。そして毎月第三土曜日に「お誕生日会」が開かれるということ聞き、私はびびくりしました。なぜかと言うと「お誕生日会」は保育所か幼稚園で開くものであって、まさか老人ホームで開くなんて夢にも思っていなかったからです。(何と無知で考え方が古いのだろう、と笑われるかも知れませんが)

余談はさておき、私は二月の「お誕生日会」に初めて参加しました。その時は二月生まれの方が七人(男四人、女三人)おられました。全員が胸にまっ赤

## 晴れのち晴れ

①9

稲垣 恵雄

なバラの花をつけ、壇上にきちんと座っていました。その人たちは六十代前半から八十代後半ということでしたが、みんな顔色もよく、背すじもピンと伸ばしとてもお元気そうでした。それにどの人も実に良いお顔をしておられるのに、私は心打たれました。「目は心のまど」と言いますが、顔全体にもその人のお人柄が現れるということに改めて知らされました。自分も加齢とともに七人の方のような「良い顔」になれたらいいなあとしみじみと思いました。

およそ三時間にわたって歌をうたったり、クイズやゲームをしました。そして最後に老人ホームのスタッフが花束を贈呈して祝福しました。七人ともいつまでも良い思い出として残ることでしよう。私も「お誕生日会」に参加して良かったと思っています。

## チカちゃんに感謝をこめて

神戸女学院大学文学部

岩田 泰夫

伊藤智佳子(チカちゃん)さんの「ピア・カウンセリングを考える」の連載を読ませていただきました。ありがとうございます。ありがとうございました。

先日、最終回の連載の記事の中で、名前が出ていましたので、一人の読者として連載に対する感謝の言葉を添えさせていただきます。

私とチカちゃんとの間柄は、深く長い関係にあります。どのように深いかは、想像(創造)していただくとして、どのように長いかと言いますと、今では既に10年近く

なります。私が、名古屋にいた時にAJUというところで知り合い、一緒にピアカウンセリングを受けました。チカちゃんの魅力は、写真にあるようになかなか美人であるところに加えて、やさしく親切でシャイなところですよ。

さて、連載ですが何が興味深かったかといつて、今、注目されているピアカウンセリングというものを広い視野で、なおかつ実感させられる近い距離で書かれているところですよ。広く、遠く、しかも近いところですよ。

たとえば、最終回で、「・・・ピア」であり続けることと同時に『ピア』であることから一旦離れ、一枚『フィルタ』を通してピア・カウンセリングを見るという作業・・・」などと書いてられます。

言ってみれば、ピアカウンセリングを書くということ、仲間であるが仲間ではなく、ピアカウンセリングというものをみていく必要があるということです。ピアカウンセリングという仲間同士の行いを書くためには、一旦、それから距離をとって客観的にみる必要があるということです。客観

的になれば、外側から離れてピアカウンセリングをみれば、私は、その時には、仲間ではないピアではないと言っているのです。仲間と、仲間ではない執筆者なるということの苦しみ伝わってきます。

これは、さらに、次のようなことも言っていることになります。

仲間同士は、二人が同じ障害をもっているからといってピアになれるのではない。二人が、ピアになるためには、内側から理解しあうことが必要である。

同情のように上から下をみるようなものではなく、共感のように一枚膜があるような関係ではなく、共感しあっていることを共感するような一体となることであると云っているのです。

「私もそう」「あなたって、私と一緒に」「あなたの話を聴いていると、私から発せられてあなたにあたって戻ってきているような『こだま』のように聴こえる」と発せられているようです。言ってみれば、抱き合っているのです。

「そんなことをしていたら自立できないよ」「薬は飲んだ方がよいよ」などと外側

から理解するのではないことを教えてくれます。

さらにまた、事実を伝えれば、何んの説明もしなくても分かり合えると言うのです。

「職場がみつかった」と言えば、それまでの苦しみと、みつかった喜びが手に取るようにわかるのです。

仲間であって、仲間でない。仲間ではなくて、仲間である。どちらにしる、人間である。

長い間、ありがとうございます。チカちゃん、バンザイ。そして、サロン・あべの、バンザイである。

## 感謝

カンパ、お菓子等のご寄贈を、また、サロングッズのお買い上げを、ありがとうございます。

秋本美智子、安達尚子、大西暉子、

岡 賀寿子、奥田久子、黒羽玲子、

坂井柊子、鈴木三佐子、T・N、

てくてくすみよし 土井俊次、

富田万里子、中西利香、和田保子、

吉原和郎、その他の方々

## さきみみずきん

### 超恐ろしい夢

夜中に、主人がうんうんうなされているので目が覚めた。あまり苦しうなので揺り起こすと、とても恐ろしい夢を見たと言う。

真夜中に、トイレに行くといっていたドアが音も無く半分閉じかけ、確かに中に誰かが居てこちらを窺っている気配がしたと言う。足が竦んで、何とかドアを開けようとするが、果たせなかったと言う。怪談など恐がらない人なのに、大きな体を縮めて今見た夢の話をする。

そういうえば、私もときどきトイレの夢を見る。私の場合は、ドアが壊れていたり、便器が汚れていたりして使えないという夢だ。どうも、眠っていて、ト

イレに行きたくなったときに見るらしい。

何となく私もゾクツとして、ふたりに連れだってトイレに行き、そのあとは心安らかに眠った。

若い頃は、一度眠りにつけば、朝まで目が覚めなかったが、中年になってからは一、二度夜中にトイレに起きる。これからもチヨクチヨク、トイレの夢を見る事だろう。でも、今、私が本当に恐ろしいのは使えないトイレではなく、美しく良い香りのトイレが優しくドアを開き、どうぞ、いらっしやいと手招きする夢だ。

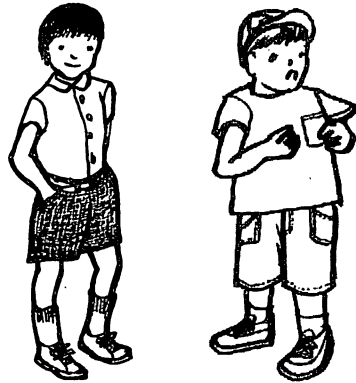
目が覚めたあと、どうなっているか考えただけで超恐ろしい。

(表谷恵美子)



☆平成十一年度活動テーマ 「障害者の現在・過去・未来」

月・日・曜日	会場	毎月の出会い
平成11年 4・17・土	育徳コミュニティセン ター2階研修室	「車椅子で行くおすすめデザートスポット」 ↳ 障害者にやさしい街づくりとは？ パネラー   平下耕三氏(童夢KANSAI代表)
5・15・土	育徳コミュニティセン ター2階研修室	「インターネット入門」↳ 出会いの扉を開こう！ パネラー   西村祐介氏・中西久雄氏(Heart Land 茶々)
6・19・土	育徳コミュニティセン ター2階会議室	「乙武洋匡著『五体不満足』の大ベストセラーに見る障害者観」 フリートーク・司会進行   上平幸雄氏
7・17・土	育徳コミュニティセン ター2階研修室	「タイ人によるタイ料理教室」 パネラー   加藤ナムティップ氏(料理実演)
8・1・日	工芸高校校庭	「さろん亭」開店、あべのカニバルなんでも市通り
9・18・土	育徳コミュニティセン ター2階研修室	「頸髄損傷者の生活術」↳ 24時間介助体制の確立 パネラー   後藤基泰氏(大阪頸髄損傷者連絡会)
10・16・土	大阪人権博物 館(浪速区)	「大阪人権博物館   リバティおおさか」見学会



11・20・土	育徳コミュニケーション 2階研修室	「二次障害の予防について」～日常生活での工夫～ パネラー＝茂原直子氏(南大阪療育園・作業療法士)
12・4・土	天王寺都立2F 育徳コミュニケーション 2階研修室	「ちよつと早い 年忘れ昼食会」中華料理「四川」 「ポッチャの魅力」 パネラー＝安陵武文氏
平成12年 1・15・土	育徳コミュニケーション 2階研修室	「楽しいマジック」 パネラー＝岸本秀男氏(大阪市生涯学習インストラクター)
2・19・土	育徳コミュニケーション 2階研修室	「人にやさしい駅へ」 パネラー＝三好桂子氏(女の目で大阪の街を作る会)
3・18・土	育徳コミュニケーション 2階研修室	

◎その他の活動

- ハサロン・あべのV紙毎月第3土曜日発行
- ハサロン・あべのV紙、毎月朗読テープ作成(朗読V・Gほけつと)16名へ送付
- さろん文庫開設Ⅱ毎週金曜日午後1～4時(阿倍野区在宅サービセンタール・ビューロー室)
- さろん文庫本、朗読テープ作成(朗読V・G糸でんわ)
- 毎月の広報活動：アベノ・タウン紙、朝日新聞、産経新聞、毎日新聞、読売新聞、他
- 海外文通：アメリカ「Patti Trucky」、イギリス「Margaret Bowler」、韓国Ⅱ馬 泰植、ドイツ「Brigitte Ehrenberg」
- 平成11年度大阪市ボランティア活動振興基金助成金交付を受ける
- サロングッズ制作と販売
- ハサロン・あべのV10周年記念誌「はあとが、はろー!」、絵葉書「花だより」、一筆箋、「阿倍野いろはがるた」など



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」5月の出会い

日時 ; 平成12年 5月21日 (日)

午後1時30分~4時

場所 ; 「やすらぎ」

[大阪市淀川区三国本町2-14-3]

内容 ; 「バルーンを使って

創作しましょう」

~風船って自分自身が

楽しむことができます~

パネラー ; 川平 省二 or 窪田 新一 氏

(淀川区社会福祉協議会コーディネーター

サロン淀川)

会費 ; なし

問い合わせ先 ; 淀川区社協 ボランティア・ビューロー

TEL 06-6394-2900

■「ウイズ東淀川」5月の出会い

日時 ; 平成12年 5月14日 (日)

午後1時30分~4時

場所 ; 大阪市東淀川区民会館4F会議室

[大阪市東淀川区東淡路1-4-53]

(クレオ大阪北裏、区民プール裏)

内容 ; 「放送禁止」

パネラー ; 重光 萬石 氏

(JBSパーソナリティ・

タレント・鍼灸師)

会費 ; なし

問い合わせ先 ; 鈴木 昭二

TEL. 06-6340-3082

FAX. 06-6340-3012

■「サロンいたみ」5月はお休みです。

おしらせ

<サロン・あべの>5月の出会い

日時 = 5月20日 (土) 午後1時~4時

場所 = 育徳コミュニティセンター2階

(スロープ・車椅子トイレあり)

[阿倍野区阪南町5-15-28]

内容 = 「楽しい旅のはなし」

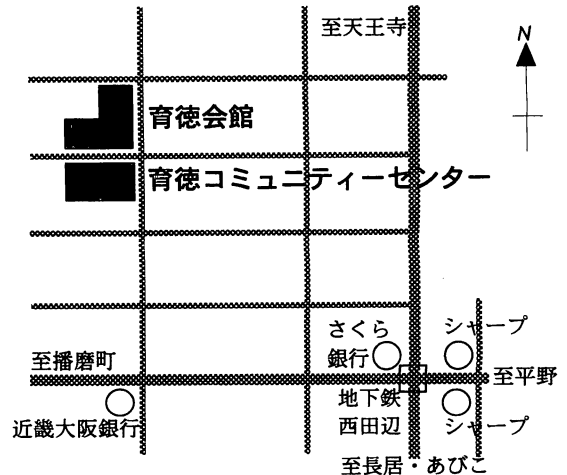
パネラー = 中田 治 氏

旅行情報誌「WOO」主宰

会費 = なし

お問い合わせ先 =

TEL 06-6691-1028 (富田)



編集人 ; サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.166 [H.12. 4.15.発行] 定価 ¥100.

代表 ; 山村貴司 〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺5-1-18 TEL 06-6691-9071

連絡先 ; 富田慶子 〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL・FAX 06-6691-1028

表題 ; 井上憲一・筆 文中イラスト ; 石田美禰子

郵便振替口座 ; サロン・あべの 00950-9-26941

印刷 ; セルフ社 〒546-0044 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2F TEL 06-6719-8212